

【インドネシアの子供のための地震津波パンフ配布活動】

＜バンダ・アチェ市に昨年できた国立津波博物館を訪問しました＞

インドネシアで大きな津波があつてから7年がたちました。その被害の様子を後世まで語り継ぐためにインドネシア政府は大きな津波博物館を建設しました。アチェ市は市の人口の4分の1に当たる20万人の方がこの津波でなくなりました。現在では津波があつたことがわからないほど街は復興を果たしていました。

私たちは、昨年バンドン市を訪問したときに地質調査所の津波博物館の担当者から津波教材の支援の申し出があり、その一環としてまず、津波の紙芝居と津波絵本、津波模型などを持って訪問しました。

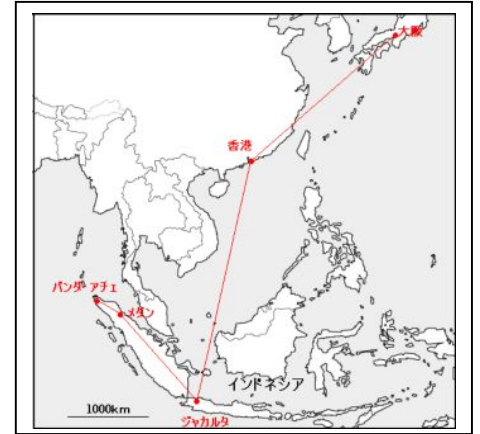
参加者と日程：2012年3月23日～29日、インドネシア スマトラ島の北端にあるバンダ アチェへ、香川直子、遠藤敦志、上島昌晃、Dicky Muslim、柴山元彦の5名が津波教材を持って訪問しました。

訪問先：国立津波博物館（館長と面会し紙芝居2部と津波絵本8冊、津波模型教材、津波パンフ100部、地震パンフ100部を渡す）

国立地質調査所（所長と面会し紙芝居と津波絵本を渡す）

津波防災センター、津波避難ビル、津波公園、津波で亡くなった人の集団墓地など見学。

今後の予定：博物館の館長さんから私たちが作った津波絵本をもっと多くほしいとのことで、今後、印刷して送ることになりますが、最後のページに絵が動く仕掛けがあるので、これをボランティアの方々で作成していただかなくてはなりません。多くの方の協力をお願いします。



国立津波博物館	右から3人目が博物館の館長さん	博物館で津波紙芝居の贈呈
津波教材の贈呈	津波紙芝居の実演	津波模型の実演
津波避難用建造物	地質調査所所長さんへ紙芝居の贈呈	地質調査所の玄関で記念写真

◎東北へ絵本を送る活動は継続しています。不要なきれいな本をお持ちの方は当オフィスまでお送りください